



2023年9月27日

報道関係各位

鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023 実行委員会

<ご取材のご案内>

**4年ぶり実施！ 1929年から神田鎌倉町と大手町をつなぐ鎌倉橋を
神田・大丸有エリアのワーカー・来街者・居住者 約100名が大掃除!!**

「鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023」

実施日時：10月5日（木）16:00～17:00（受付開始：15:30～）

実施場所：鎌倉橋（東京都千代田区大手町2丁目3番5号地先）※雨天決行（荒天の場合は中止）

大手町・丸の内・有楽町エリア（以下 大丸有エリア）のまちづくり3団体*と内神田鎌倉町会で組成する、鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023 実行委員会は、**2023年10月5日（木）16:00から、神田・大丸有エリアのオフィスワーカー・来街者・居住者 約100名が両エリアをつなぐ「鎌倉橋」を洗う「鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023」を実施いたします。**

*NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会、（一社）大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、（一社）エコツェリア協会の3団体



「鎌倉橋橋洗いプロジェクト」実施時の様子

本プロジェクトは、関東大震災の復興橋として1929年（昭和4年）に建設され、大手町と神田をつないできた歴史ある架け橋「鎌倉橋」を両エリアが力を合わせて洗い、鎌倉橋とその周辺エリアの歴史に再び光を当てるとともに、更なるエリア連携と相互発展のために実施するものです。2015年から2019年まで実施していたプロジェクトは、今回4年ぶりに6回目の実施を迎えます。

つきましては、**本件何卒ご取材賜りたく、ご案内申し上げます。**ご取材につきましては以下<ご取材のお申込みについて>に記載の必要事項をご記入の上、メール（tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp）にて**[10月3日（火）17:00]**までにお送り下さいますよう、お願い申し上げます。

「鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023」当日スケジュール

16:00～ 開始挨拶	内神田鎌倉町会長（実行委員会副委員長） 大丸有まちづくり協議会 都市整備部会長
来賓挨拶	千代田区長
16:10～ 橋洗い開始（①クワシで欄干洗浄 ②デッキブラシで橋床洗浄 ③水消火器にて洗い流し）	
16:50～ 閉会挨拶	大丸有まちづくり協議会 都市運営・プロモーション部会長 内神田鎌倉町会青年部長（神田一本締め）
17:00 終了	

※雨天決行（荒天の場合は中止）

<ご取材のお申込みについて>

ご取材いただけます場合には、お手数ですが、下記必要事項をご記載の上、PR 事務局 (tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp) までご連絡ください。

【必要事項】

貴社名：

貴媒体名：

お名前：

ご連絡先：TEL.

Mail.

参加人数：

備考：

プロジェクト概要

プロジェクト名：鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023

実施日時：10月5日（木）16:00～17:00

実施場所：鎌倉橋（東京都千代田区大手町2丁目3番5号地先）

参加者：神田・大丸有エリアのオフィスワーカー・来街者・居住者 約100名

主催：鎌倉橋橋洗いプロジェクト 2023 実行委員会

-構成団体：内神田鎌倉町会

NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）

一般社団法人 大丸有まちづくり協議会（大丸有協議会）

一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコツツエリア協会）

後援：千代田区

協力：一般社団法人 大手町歩専道マネジメント/トヨタモビリティ東京 株式会社/赤穂化成株式会社/株式会社 楓屋/大成建設株式会社/三菱地所株式会社/一般社団法人情報連携推進機構/テイケイ株式会社



<ご参考> 鎌倉河岸・鎌倉橋の歴史について

天正十八年（1590年）、豊臣秀吉の命により徳川家康は関東二百四十万石の領主として江戸に入りました。当時の江戸城は城塞を整備しただけの粗末なものでしたが、日比谷の入江にそそぐ平川を付け替えて外堀とした（現在の日本橋川）ほか、日比谷入江を埋め立てて家来の屋敷を置くなど、城下町整備を進めました。関ヶ原の戦いを経て、慶長8年（1603年）についに征夷大將軍になった家康は、江戸に幕府を開き、町の整備と併せて江戸城の普請に乗り出しました。

家康入府のころから、この付近の河岸には多くの材木石材が相模国（現在の神奈川県）から運び込まれ、鎌倉から来た材木商たちが築城などに使う建築部材を取り仕切っていました。そのため、その荷揚げ場が「**鎌倉河岸（かまくらがし）**」と呼ばれ、それに隣接する町が鎌倉町と名付けられたといえます。

1657年の「新添江戸之図」には、すでに「かまくら丁」の名が記載されており、現在その地域は1966年の町名変更により内神田の一部となっています。つまり、鎌倉河岸は「江戸始まりの地」ともいえるのです。当時、鎌倉河岸は江戸城本丸に最も近い荷揚げ場であったため、多くの物資が荷揚げされ、問屋街の形成にもつながりました。立地的にも川の沿岸で水運も便利であり、本丸にも近いため、明治維新まで荷揚げ場として使用され、更に昭和になっても建築部材の荷揚げが続けられていたといえます。

現在の鎌倉橋は、関東大震災の復興事業で架け替えられたコンクリート製アーチ橋で、1929年（昭和4年）4月25日に完成しました。大手町川端緑道沿いで日本橋川にかかる5つの橋（上流側から、錦橋、神田橋、鎌倉橋、竜閑さくら橋、JR橋）の一つにあたります。欄干には、1944年11月に米軍による爆撃と機銃掃射を受けた際の銃弾の跡が残っており、戦争の悲惨さを現代に伝えていきます。なお、2007年（平成19年）3月28日に千代田区景観まちづくり重要物件に指定されています。



江戸期の鎌倉河岸



鎌倉橋

昭和4年（1929）4月25日

<本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先>

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりPR事務局 共同ピーアール(株) PRアカウント本部 11部 担当：内山・田口

TEL：070-4303-7327 / 090-7739-1083 E-mail：tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp